

令和5年度の具体的な学校経営目標・計画

岡山県立玉島商業高等学校

(A:目標を上回った B:ほぼ目標どおり C:目標を下回った)

具体的な施策	関係分掌	現状（昨年度末の状況）	具体的計画	今年度の達成基準	自己評価（中間）		自己評価（最終）		
					達成状況	評価	達成状況	評価	総合評価
1 教師力をアップし学習活動や部活動、ホームルーム活動など、生徒の成長が実感できる環境を整える。	学力向上委員会	・昨年度学校自己評価アンケート「学校はICTの利活用・グループ活動・発表などを取り入れ魅力的な授業を行っている。」生徒：92.6% 保護者：92.8% 教職員100.0% →全体的に肯定的な意見が大半である。 ・新教育課程となり2年目を迎え、3観点に沿った評価と授業改善の継続が求められている。	・学力向上委員会を定期的に開催し、計画（シラバス）の完成と授業力アップにつながる情報発信・共有を行う。 ・教員研修や公開授業などを通して、1人1台端末を活用した授業づくりを後押しする。	・学校自己評価アンケートにおける肯定的評価が、昨年同様の値となる。	・1学期において、学力向上委員会を2回実施した。 ・前期公開授業週間(6/5～16)では16名の先生が、1人1台端末・電子黒板等のICTを活用した授業を展開した。	B	・後期公開授業週間(11/6～17)で17名の先生が、ICTを取り入れた授業展開を実施。生徒自身が1人1台端末を活用する場面が多く見られた。 ・シラバス作成を早期に依頼し、3年間を見通した観別評価、見取り項目の再点検をお願いしている。	B	B
	国語科	・表現活動の一環として、新聞投稿や、新聞作成・短歌・俳句等の作品コンクール応募に取り組んだ。 ・文章を書くことへの抵抗感が少ないが、漢字の読み書きの力・基本的な語彙力、表現力が不十分である。	・表現する機会を充実させ作品応募に積極的に取り組み、外部の評価を得る。 ・全学年共通漢字力テストや学年ごとの漢字テストを実施し、知識の定着を図る。	・全生徒が各種コンクールへの応募作品に取り組み、生徒が評価を得ることで自信を持つ。	各学年でコンクールへの出品することにより、普段の授業とは違う達成感を感じることが出来ている。	B	・様々なコンクール等に出品することができた。 ・年3回の漢字力診断テストの実施	A	
	数学科	・数学に苦手意識を持っている生徒が多く、「理解したい」とか「より高度な学力を身につけたい」と思わない生徒が相当数いる。また、看護系などの進路を希望し、数学が苦手だが必要な生徒がおり、学習内容のレベルの調整が難しい。	・ICTを利用して丁寧な授業を行い、演習問題を多く取り入れた繰り返し学習の学びと、より高度な問題に興味・関心を持ち、自主的に取り組めるようにするため、授業プリントや課題にレベルの異なる問題を配置し、知的好奇心をくすぐる。 ・数学が入試に必要な生徒には個別に指導を行う。	・数学の授業を通して、生徒が「成長できた」と実感できたと思える（独自の授業アンケート結果が8割を超す）。	・課題の提出率は95%以上だが、提出しない生徒は指導してもなかなか改善がされずそれが成績不振にもつながっている。効果的な指導を工夫してしていきたい。 ・意欲の高い生徒は、準備した課題に自主的に取り組んでいる。	B	・課題の提出率は95%以上であった。 ・考えさせる事を大切に授業を進めている。なかなか徹底し、中学の頃より数学の苦手意識は減っているようである。 ・自主的に問題に取り組む態度が身につけている生徒が増えている。	B	
	保健体育科	・自他の課題には気づいているが、解決に向けて本気で考え、具体的なめあてを設定し、行動することができていない。 ・早く集合は出来ているが整理はできていないが、授業内容を把握し先を読んだ準備ができていない。	・生徒自ら練習計画をシートを活用し立てさせ、技能向上に向けめあてを具体的に記述させ、主体的に取り組むことができる生徒を育成する。 ・主体的に考え、実践できる能力を身につけ、充実感を味わえるような活動内容に工夫、改善していく。	・自ら課題を見つけ、計画的な実践を通して、自らの技能の上達を体感し、運動の楽しさや喜びを感じ、かつ達成感を味わうことができる。 ・主体的な取組ができ、課題を解決する力、実践力が身につけている。	B	・選択体育では、真剣に取り組んでいるが、課題が練習に結びついていない。 ・事故ゼロが達成できなかった。出張時の授業が課題である。	B		
英語科	・「全商英検の合格率」3級の合格率は約70%で有る。2級はここ数年の難化傾向が続く中、1年生に合格者が2名、2年生の合格者が4名である。実力診断テスト結果も併せ、一定程度基礎学力の定着はなされている。 ・全商主催スピーチコンテストに挑戦する生徒も出ている。 ・調査の平均点は全学年ともに60点を超え、適正に実施されている。	・全商英検の合格者の増加とGTZの数値の向上を目指し、授業や補習での取組を改善する。 ・基礎学力の定着をはかるために、課題を期限内に提出する指導をより推し進める。	・基礎学力が定着している。 ・全商英検2・3級の合格者数が昨年を上回る。また全商英検1級の合格者が複数名いる。	( )内は昨年9月期合格者数 3級の合格者 1年87人(12月受験) 2級の合格者 3年 1人(0) 2年 2人(3) 1年 1人(2) 1級の合格者 2年 2人(0) 上位の生徒については実力がついて来ている。12月受験に向けて学習意欲を高める声かけをしていく。	B	( )内は昨年合格者数 3級の合格者 1年 96人(127) 2級の合格者 3年 1人(0) 2年 5人(3) 1年 4人(4) 1級の合格者 2年 2人(0) 2級保有者は3年5人、2年9人、1年4人であり、特に2年生の上位の生徒が実力をつけて来ている。	B		
2 特別活動や部活動、社会貢献活動など生徒が活躍できる機会を増やすことにより、社会規範を身に付けさせ社会人基礎力を育成する。	1年団	・入学したばかりで、部活動はまだ入部を決めかねている生徒がいる。特別活動などどのようなものがあるかわからない。 ・社会貢献活動は、コロナ禍で中学校でも十分な活動ができていない。	・積極的に部活動へ入部、活動するよう声掛ける。 ・学年行事などの司会を生徒へさせる。 ・社会貢献活動などへ積極的に参加するよう声掛けをする。	・学校行事、学年行事など生徒たちが企画、運営できるようにする。	・中間・期末考査期間中の学年集会で室長・副室長に司会を任せ、集会を進めることができた。また、クラスの様子や委員会での取組等を発表させた。 ・F祭の準備を夏休みの早い時期から取り組んでいる。	B	・学年集会で各クラスの室長・副室長にスライドを使って、クラスの近況等を報告させることができた。 ・F祭(文化の部)では、各クラスとも早くから取組、工夫を凝らしたよいものができた。 ・部活動では、転部をしたり、活動に参加していない生徒がいる。	A	
	2年団	・コロナの影響で中学生の頃より様々な特別活動が中止されて経験ができていない。	・インターンシップ、ボランティア活動などに積極的に取り組ませる。	・キャリアパスポート【学校外の活動】での振り返りでインターンシップ、ボランティア活動での感想がほとんどの生徒が肯定的である。	企業からのインターンシップの評価票のほとんどが肯定的なものであり、生徒の成長が伺えた。	B	インターンシップ、良寛研究などに前向きに取り組む、振り返りの感想から多くの学びがあった事が伺えた。	A	
	3年団	・コロナ禍の制約がある中で特別活動や部活動もほぼ実施できており、生徒会総務委員や部活動での役割、クラスでまとめ役をする者が増え責任感をもって行動ができています。 ・2年生までに4日間の社会貢献活動に参加ができていない者が数名いる。	・特別活動の様々な場面で、最高学年としてリーダーシップが発揮できるように呼びかけ支援し後押ししていく。 ・木曜日の部活動の日には、生徒の活動を見守れるようにする。 ・社会貢献活動が5日間になるように地域のボランティアに参加できるように情報提供を行う。	・前に踏み出す力と考え抜く力、そしてチームで働く力を身につけるようになる。	・部活動の顧問の指導もあり、運動部と文化部で全国大会に出場できた。 ・積極的にボランティア活動に取り組んでいる生徒もいる。	B	・多くの生徒が最後まで各部活動で頑張っていた。結果の残す生徒もいたが3年間継続して努力する姿勢を感じることができた。 ・コロナ禍ではあったが、3年間社会貢献活動を通して地域貢献することができた。	A	
	生徒課	・コロナ禍で行事が計画通り進まない。 ・部活動では多くの部が目標に向かって協力し、活発に活動している。	・本年は、行事等が計画通り進む。計画・実行・評価までを取り組む。 ・様々な行事(F祭等)を通して、他者と関わり自身の役割を理解させクラスで協力をさせる。 ・県大会出場を目指し活動する部が前年度より増加している。	・多く生徒が積極的に各行事に参加する。その際に、しっかりとした計画・実行・評価を行う。 ・部活動では多くの部が目標に向かって協力し、活発に活動している。部活動の入部率が95%を維持する。 ・部活動では、少しずつではあるが成果が出てきている。文化部等の見えない部分をどう広報していくかを検討していきたい。	・「昨年よりももう一つ」新しい取組をお願いしてきたが、学年・各種委員会で少しずつ動きが出てきている。 ・部活動の入部率は全体で95%を維持しているが、参加していない生徒へのアプローチや変更を含めた取組をしていきたい。	B	・本年度は、多くの行事を行うことで生徒たちに多くの出来事を体験させることができた。生徒も教員もゼロからスタートで戸惑いながら良い経験を重ねている。 ・委員会では新しい取組を始めているところも増えている。 ・部活動は95%以上の入部率がある。今後各部の取組へのアプローチが大切になるであろう。	B	
進路指導課	・授業・提出物は真面目に取り組むことができているが、言われたこと以上のことはできていない。	・日商簿記2級・ITパスポート等の上級資格取得者が、地元優良企業への就職内定や、国公立大学への進学ができていない現状を伝え、家庭学習の重要性を伝えていく。	・上級資格を利用した推薦入試の受験者を複数出す。	学年主任の取組にも助けられ、上級資格の取得はできたが、担任団との温度差があり受験者数は減少した。	C	上級資格取得者の数は増加したが、進学希望者が資格を利用していない受験はなかった。	B		
総務情報課	オープンスクールの参加が469名の参加が有り、入試倍率が本年度の大きな課題であったが、12月の希望調査で1.08倍の倍率であったが、特別・一般入試は概ね目標であった。作陽高校が玉島に開校された。 ・出前講座 15回実施 ・学校説明会 4回実施 132名参加 ・オープンスクール 469名参加 ・広報誌 1回(訪問は3回)を各中学校に配布 ・図書平均貸出冊数 6.0冊 ・入学者募集状況 一般1.47倍 特別1.45倍	・出前講座、学校説明会、オープンスクールを開催することで中学生やその保護者に情報を提供し、玉島商業の良さや特徴を周知する。 また、ホームページを随時更新することで最新の情報提供をしていき同時に、SNSを使った学校の様子を発信していく。 ・広報誌やスクールガイドを中学校に持参し、中学校の入試動向や入試情報の情報交換やお願いをすることで、中学校の先生方との関係を深めるように努め、入学者募集につながるようにする。 ・新型コロナウイルスの影響で低調になっている図書貸出を少しでも多くの生徒に本を読んでもらえるように啓発をする。	・出前講座 8回実施 ・学校説明会 4回実施 100名参加 ・オープンスクール 300名参加 ・広報誌 2回(訪問は3回)を各中学校に配布 ・図書平均貸出冊数 7.0冊 ・入学者募集状況 →1.20倍 特別1.30倍	・第1回オープンスクールでは305名の参加があった。当初目標を上回りそうであるが、昨年より5名の減少であった。 ・近隣に作陽高校の移転があり、入試倍率が本年度の大きな課題であるため、それに向けて今後もコツコツと対応していきたい。	B	オープンスクールの参加が470名の参加が有り、入試倍率が本年度の大きな課題であったが、12月の希望調査で1.11倍の倍率であった。出前講座10回、学校説明会220名参加、学校訪問3回と入試倍率も昨年を上回った。入試倍率以外は目標をすべてクリアできた1年であった。	A		
商業科	・3年生「課題研究」を中心に、地域と連携し、探究活動に取り組ませた。また、探究活動について校内では「課題研究発表会」で、校外でも発表会で報告を行った。 ・一連の活動を通して、多くの生徒が社会人基礎力を身に付けることができた。	・これまでに引き続き、3年生「課題研究」を中心に、地域と連携し、探究活動に取り組ませる。また、探究活動について校内では「課題研究発表会」で、校外でも発表会で方向を行う。	・コロナによる規制が少なくなり、「玉商生の恩返しツアー」も再開できそうである。昨年度より多くの生徒が地域と連携し、探究活動、発表等を通して社会人基礎力を身に付けている。	「課題研究」の授業を中心に探究活動に取り組む、講座内発表も行っている。また、地域連携の取組を生徒商業研究発表大会で発表した。探究活動や発表を通して社会人基礎力が身に付いている。	B	「課題研究」の授業を中心に探究活動に取り組む、講座内発表も行った。また、可能な限りで地域のイベントや校外での発表会等に参加した。様々な探究活動や発表を通して社会人基礎力が身に付いた。	B		

令和5年度の具体的な学校経営目標・計画

岡山県立玉島商業高等学校

(A:目標を上回った B:ほぼ目標どおり C:目標を下回った)

具体的な施策	関係分掌	現状（昨年度末の状況）	具体的計画	今年度の達成基準	自己評価（中間）		自己評価（最終）																			
					達成状況	評価	達成状況	評価	総合評価																	
3 成長が実感できるキャリア・パスポートの活用と将来を見据えたキャリア教育を充実させる。	1 年団	・入学したばかりで、3年後の進路がまだ明確になっていない。	・学校行事、学年行事、検定などごとに振り返りをさせる。	・自分がどのように成長しているかを考えさせ、卒業後に自分ができるような進路へ進むべきかを考えることができるようになる。	中間調査・特別時間割の期間に各クラスで、キャリア・パスポートを活用し、生徒へ振り返りをさせることができた。	B	定期的に、キャリアパスポートを活用して特別活動等の振り返りができた。また、入学から現在までの自分自身の成長度合いを知ることができた。	A	B																	
	2 年団	・就職か進学かについてある程度決めているが、具体的な進路についてはまだ決まっていない。	・インターンシップを通して職業体験をさせ、自分の適性について考えさせる。 ・来年を見据えて、今何をすれば良いかを考えさせ実践させる。	・希望進路がより具体的に決まっている。	・玉ナビやインターンシップを通して働くことの大変さが見つかるべき事を知ることができている	B	玉ナビやインターンシップ、進路ガイドダンスを通して進路についてより多くの知識を得て希望進路について考えを深めることができた。	B																		
	3 年団	・過去2年間計画的にキャリア・パスポートへの記入（年度当初・中間・年度末）を実施し、振り返りまで行っているが十分な活用ができているとは思えない。 ・キャリア教育を充実するために、2年生の3月には進路課面談を実施する日にクラスごとに集団面接を行い進路意識向上の動機付けを行っている。	・4月からの面接指導・履歴書記入指導を行い、進路意識を高める。 ・学習面では商業高校ならではの資格取得へチャレンジ、学習面以外では部活動・学校行事への最高学年として取組、学校以外ではボランティアへの積極的参加を促す。 ・生徒と保護者の進路希望の確認を行い、意見の相違がないようする。	・希望している進路先に内定・合格し、更にキャリア教育を充実させている。	・就職者50名二つについては多くの生徒が第1希望の就職を受験できている状況でその他の生徒もほぼ第2希望までの受験となっている。進学者もAOや指定校推薦の準備を進めている。	B	・就職内定者（縁故含）53名と未定者2名内1名は近日中に受験予定である。残り1名にも最後まで進路課連携フォローしていきたい。 ・進学者82名の内訳が大学30名・短期大学3名・専門学校49名になったが国公立大学等への合格が出なかったのが課題である。	B																		
	進路指導課	・プリントへ年度当初・中間・最終結果の記入のみで、途中の過程が記入されていない。	・iPadを利用し日々の記録をメモをしながら、中間・最終結果の記入をさせ、1年間の自分の変化が見えるような利用方法を構築していく。	・iPadで自分の高校生活の変化が実感できるようにする。	基礎力診断テストの事前学習で使用する、デジタルドリルの使い方の講習ができ、iPadを利用した事前学習ができるようになった。	B	基礎力診断テストの事前学習で使用する、デジタルドリルの使い方の講習ができ、iPadを利用した事前学習と基礎力診断テストのデジタルによる実施の準備ができた。	B																		
4 様々な行事を通して、生徒の自主性を育み、志を醸成することが出来る機会を設定する。	2 年団	・とても素直で従順なだけに、受け身の傾向がある。	・修学旅行の計画にできるだけ生徒を関わらせ、自主性を育む。学年行事で生徒が活躍できる場面をつくる。	・修学旅行などの行事の中で自主的に行動できた内容について考えさせ、全員が成長を感じることができている。	修学旅行委員を中心に自分たちでどうしていきたいか考えさせ、実践させた。班別自主研修の計画を一学期末から余裕を持ってしっかり考えさせている。	B	F祭や修学旅行などの行事を通して、自主的に考え計画することの大切さと実践することの難しさを経験し、成長につなげることができた。	B	A																	
	3 年団	・初めて経験する行事では、教師指導型で積極性に欠け自主性を育む機会が少なかった。経験のある行事等では、クラスで協力し自主的に取り組み、行事を成功させるだけに止まり、志を醸成するまでには至っていない。	・学校全体では生徒会総務委員、クラスでは室長・副室長、F祭においてはブロック長など、様々な場面でリーダーシップを発揮できるように考えさせ、気軽に相談ができる環境を整える。 ・情報提供を早く行い、企画する時間を多く持つ工夫をする。必要に応じてそれぞれの行事の目的を考えさせる。	・最高学年として行事の目的を考え、一つひとつの行事に積極的かつ自主的に取り組み、成功裏に終わらせ自信を持つようになり、将来に活かせるようになる。	・進路実現と並行して学校行事の準備等が進んでいる。	B	・数年ぶりの規制のない従来通りのF祭で最高学年として自覚を発揮し学校行事を成功に導いた。特に文化祭の演劇ではここ数年にない「今の高校生に訴えかけるシリアスな演劇」を演じるクラスもあり感動を与えた。	A																		
	生徒課	・ボランティアへ多くの生徒が参加し、経験を通して助け合い心が養われている。 ・多くの生徒で役割を分担しそれに携わることで人とのつながりを意識した取組が始まっている。（F祭・委員会活動等）	・ボランティアに関しては、本年度は、制限も緩和されるであろう。3年間止まっていて生徒も経験していないことがおおある。多くの機会を生徒へ与えていく。 ・交通マナー・人権意識等社会人として必要な力を養えるように粘り強く指導していく。（講演会・LHR等あらゆる場面で） ・コロナで3年間制限の中で行われていた。経験をしていない生徒が計画実行をして行くことになる。知らないから始まる新しい玉商への機会にしたい。	・ボランティア活動への参加希望は増えてきている。多くの生徒の参加を呼び掛けていく。 ・規範意識を持たせるために人権教育委員会や教育相談と連携をはかり把握に努める。	B	・多くのボランティア参加希望者に対して、呼び掛けができた。 ・マナーや人権意識は、コロナ禍で多く学んだと思うが、人への配慮は足りていないのではないかと。 ・F祭に対しても、楽しむことは楽しいものであるが、周りの人もいることを考えながら、みんなが思い出になるようにしていきたい。	B	ボランティアへの参加は、積極的に参加する生徒もあり意識は上がってきているのではないかと。SNSに絡む問題等、人権とは何か、を考へ今を生きる力を講演会や機会ごとの指導を通じて理解している。他人が迷惑しても自分だけなければいいという行動がみられ、集団をしっかりと考えさせていくことが大切であろう。		B																
5 生徒がICTを活用する授業の実施をする。	教務課	・昨年度学校自己評価アンケート「学校はICTの利活用・グループ活動・発表などを取り入れ魅力的な授業を行っている。」生徒：92.6% 保護者：92.8% 教職員100.0% ・二学年で生徒が1人1台端末を所持し、活用できる環境がある。	・昨年度学校自己評価アンケート「学校はICTの利活用・グループ活動・発表などを取り入れ魅力的な授業を行っている。」生徒：92.6% 保護者：92.8% 教職員100.0% ・二学年で生徒が1人1台端末を所持し、活用できる環境がある。	学校自己評価アンケートにおける肯定的評価が、昨年同様の値となる。	・2つの学年に1人1台端末が導入され、授業のみならず特別活動等でも活用する場面が増えている。 ・公開授業週間において、iPad・電子黒板等を活用した授業実践が多く見られた。	B	・後期公開授業週間において、ICTを取り入れた授業展開が実施された。生徒自身が1人1台端末を活用する場面が多く見られた。	B																		
	GIGAスクール推進室	・学校自己評価アンケート項目（肯定度） 「学校は、ICTの利活用・グループ活動・発表などを取り入れ魅力的な授業を行っている。」 R3：生徒（83.0%）保護者（83.0%）教職員（90.0%） R4：生徒（92.6%）保護者（92.8%）教職員（100.0%）	・iPadの文具化 iPadの適切な管理と操作が不安な生徒へのフォローの充実。 ・1人1台端末を有効活用した授業づくりの後押し 学力向上委員会と連携し、教科ごとにアプリの授業による活用方法を模索してもらう。	・学校自己評価アンケート項目（肯定度） 「学校は、ICTの利活用・グループ活動・発表などを取り入れ魅力的な授業を行っている。」 生徒（95.0%）保護者（95.0%）教職員（100.0%）	・授業公開週間の授業内容に端末を活用した授業を依頼し、実施した。 ・1人1台端末を活用した学びの変容状況アンケートでの回答 <table border="1"> <tr> <td>●授業で端末活用について</td> <td>1年</td> <td>2年</td> </tr> <tr> <td>①もっと活用してほしい</td> <td>30.5%</td> <td>34.0%</td> </tr> <tr> <td>②どちらかといえばもう少し活用してほしい</td> <td>39.8%</td> <td>39.8%</td> </tr> <tr> <td>●普段、授業ではどの程度端末を活用しているか</td> <td>1年</td> <td>2年</td> </tr> <tr> <td>①毎日端末を活用する授業が3つ以上ある</td> <td>14.0%</td> <td>18.1%</td> </tr> <tr> <td>②1日に端末を活用する授業が1つある</td> <td>55.1%</td> <td>55.8%</td> </tr> </table>	●授業で端末活用について	1年	2年	①もっと活用してほしい	30.5%	34.0%	②どちらかといえばもう少し活用してほしい	39.8%	39.8%	●普段、授業ではどの程度端末を活用しているか	1年	2年	①毎日端末を活用する授業が3つ以上ある	14.0%	18.1%	②1日に端末を活用する授業が1つある	55.1%	55.8%	B	・授業公開週間の授業内容に端末を活用した授業を依頼・実施してもらったが、生徒はもっと活用してほしいという意見が多い。左記のアンケートの第2回の集計結果がまだでていないが、大きな変化はないように感じる。 ・生成AIの授業活用に向けて準備するなど、さらなる活用場面を検討している。	B
	●授業で端末活用について	1年	2年																							
	①もっと活用してほしい	30.5%	34.0%																							
	②どちらかといえばもう少し活用してほしい	39.8%	39.8%																							
	●普段、授業ではどの程度端末を活用しているか	1年	2年																							
①毎日端末を活用する授業が3つ以上ある	14.0%	18.1%																								
②1日に端末を活用する授業が1つある	55.1%	55.8%																								
国語科	・シラバスや授業で使うプリントなどの配信や、調べ学習にiPadを利用している。	・iPadを使用した学習を通して情報モラル、情報整理力、情報発信力を養成する。	・iPadを使つてのコンクールへの出品をする。 ・授業プリントの配信などで、効率化を図る。	授業で使用するプリント等を配信することで、生徒が自分たちで使いやすいように工夫している。	B	iPadを活用した授業が実施できた。	B																			
地歴公民科	・生徒端末の導入が1年生のみであり授業での活用が十分でない。	・デジタルワークブックを積極的に導入する。（1・2年生） ・様々なアプリなどのサービスを活用して主体的・対話的で深い学びの実現する。	・1年間通して生徒が授業でデジタルワークブックを活用できている。（1・2年生） ・1人1台端末についてのアンケート（教育庁情報化推進室実施のアンケート）において教科としての肯定値の上昇。	・地歴公民科教員の授業ではiPadを活用した授業展開がデフォルトとなっている。 ・GoodNoteを活用したプリント配布やGoogleWorkspaceのソリューションを活用した授業展開を公開授業以外でも実施できている。	A	・授業公開では科の教員2人ともiPadを活用した授業を展開し、校内への情報提供を行えた。 ・1人1台端末についてのアンケート（教育庁情報化推進室実施のアンケート）は教科ごとの分析が不可能となったため測定不可能となった。	B	B																		
数学科	・iPadが1年生のみの環境で、授業で有効に活用できていない。	・1・2年生に対し、iPadを有効に活用する。	・iPadで宿題を提出する機会を設ける。	・自習用教材をiPadで配信して、学習する機会を作った。	B	iPadで宿題を配信するだけでなく、グラフについて理解を深める機会を作った。	B																			
理科	・昨年度までは、生徒がICTを活用する授業は実施できていなかった。教材を電子黒板に投影して説明を行う形で行ってきた。	・実験・観察のまとめや発表の時にiPadを使っておこなう。 ・一方的な説明だけでなくICTを使って、生徒が調べるようにする。	・授業理解度80%以上。	・授業理解度は86.4%で基準は達成したが、ICTの活用に工夫の余地がある。	B	・1・2学期トータル授業理解度は87%で基準を達成した。ICT活用の頻度を増やす工夫が必要。	B																			

令和5年度の具体的な学校経営目標・計画

岡山県立玉島商業高等学校

(A:目標を上回った B:ほぼ目標どおり C:目標を下回った)

具体的な施策	関係分掌	現状（昨年度末の状況）	具体的計画	今年度の達成基準	自己評価（中間）		自己評価（最終）		
					達成状況	評価	達成状況	評価	総合評価
	家庭科	・授業の中で生徒がICTを活用する授業があまりできていない。	・2年生…夏季休業中の課題をiPadを使って実施・発表を行い、クラスで情報共有する。 ・3年生…幼稚園実習準備過程で、生徒主体で、企画・準備できるようにiPadを活用し児童文化財等の情報収集がしやすい環境を作り、主体的に幼児とかかわろうとする態度を育てる。	・2年生…全員が課題を実施・発表を行い、相互評価を行う。 ・3年生…生徒が、意欲的に実習準備、実習に参加し達成感を感じることができる。	・2年生…夏季課題を全員にclassroomで配信し提出させた。各クラスで全員がiPadを使って発表し、相互評価をすることができた。 ・3年生…12月特別時間割を使って幼稚園実習を計画している。	B	12月21、22日2日間にわたり3年生全員が玉島幼稚園での幼稚園実習に参加。iPadを活用しグループで協力しながらお楽しみ会の出し物や手づくりプレゼントの準備を進めることができた。当日は、積極的に園児と関わり充実した時間を過ごすことができた。自己評価A…97%	B	
	商業科	・情報系の科目および「総合実践」では、情報処理室①②、実践室で日々パソコンを活用した。 ・iPadに関しては、「ビジネス基礎」「課題研究」の探究活動で活用した。	・情報系の科目および「総合実践」では、情報処理室①②、実践室で日々パソコンを活用する。 ・iPadに関して、多くの授業で生徒が「Goodnotes」「Jamboard」「ドキュメント」等のアプリを有効活用する場面をこれまで以上に増やす。	・ICTを有効活用した教育の充実により、学力が向上している。	小テスト、調べ学習、スライド作成、GoodNotes等、様々なシーンで活用されており、学力の向上にいくらかつながっていると思われる。	B	小テスト、調べ学習、スライド作成、GoodNotes等、様々なシーンで活用されており、学力の向上にいくらかつなげることができた。	B	
6 生徒が安心・安全に過ごすことができる環境整備を引き続き推進する。	教務課	・昨年度学校自己評価アンケート「学校は日々の清掃活動など校内美化に努めている」生徒：85.2% 教職員：95.7% 保護者：92.0%	・個人のゴミ持ち帰り運動を継続して実施するとともに、整美委員会が定期的なアンケート調査をおこなう	・学校自己評価アンケートにおいて、生徒・教職員評価が90%以上	整美委員会が中心となって、ゴミ排出量を減らす取組を行なっている。全校に呼びかけ意識の向上を図るとともに、ゴミステーション当番を通じて適切な分別についても継続して指導している。	B	整美委員会の呼びかけとともに、Formを利用したゴミと清掃に関するアンケートを実施し、肯定的な意見が大半を占めた。また、適切なゴミ分別指導についても1年間を通じて継続実施することができた。	B	B
	進路指導課	・進路資料のデジタル化が進んできたが、進路資料閲覧室のみでの利用しかできていない。	・進路実現に必要な資料をいつでもどこでも閲覧でき、受験に向けて安心して準備できる環境を整備する。	・Classroomを利用して、必要な情報を発信する。	連絡が徹底でき、進路の手引き通りに進めることができた。	B	生徒への連絡が確実にでき、全ての行事を予定通り実施することができた。	B	
	保健体育科	・施設・器具の準備、片付を率先して行い、練習メニューに応じて安全面に配慮できる態度を身につける。	・日々、再々にわたり安全、環境を整えることを意識させ、取り組ませる。自他への配慮、思いやりの行動を常々意識し、活動に取り組ませる。	・率先して準備ができ、施設・道具の管理ができ、様々なことを予測しながら活動することができる。	・率先して準備ができ、考えながら行動できる生徒が増えてきている。	B	施設・道具の管理に不備があり、予測が足りなかったことがあった。	B	
7 協働する意識が向上する職場づくり。	管理職	・各々が与えられた仕事をきちんとこなしている。しかし、業務の平準化がなされていない。 ・組織的な取組ができていない。	・組織的で持続可能な取組ができ、業務の平準化や仕事を協働する意識を持つことができる。 ・仕事上の集団だけではなく、色々などころでコミュニケーションを取る取組をする。	・学校自己評価で教職員の満足度が高い。 ・コミュニケーションを取る場が増える。	コンプライアンス研修など、多くの場面で対話を意識し、全ての教職員が活動する場を設定する。	B	・学校自己評価では教職員の満足度が高い。 ・コンプライアンス研修等で会話をしてもらったが、対話になっていないこともあった。	B	B
8 学校教育におけるICT活用の推進と対話ができる職場環境をつくる。	GIGAスクール推進室	・学校自己評価アンケート項目（肯定度） 「学校は、ICTの利活用・グループ活動・発表などを取り入れ魅力的な授業を行っている。」 R3：生徒（83.0%）保護者（83.0%）教職員（90.0%） R4：生徒（92.6%）保護者（92.8%）教職員（100.0%） ・何かあった時にGIGA室のメンバーがすべて対応する場面が多い。	・1人1台端末を有効活用した授業づくりの後押し 学力向上委員会と連携し、各教科ごとにアプリの授業による活用方法を模索してもらい、公開授業週間などで互いに見られるようにし、情報を共有する。 ・スケジュール管理 Googleカレンダーの活用によりスケジュール管理の一元化を図る ・ボトムアップによる活用の推進 各課・科・学年などのGIGAのメンバーからの意見を共有し、校務や授業での有効なICT活用を模索するとともに、GIGAのメンバーを中心に、各課・科・学年などの中で活用のスキルアップを図る	・学校自己評価アンケート項目（肯定度） 「学校は、ICTの利活用・グループ活動・発表などを取り入れ魅力的な授業を行っている。」 生徒（95.0%）保護者（95.0%）教職員（100.0%）	・端末を活用した授業をテーマに公開授業を実施してもらったが、互いに見て情報を共有する姿は少なかった。 ・GIGA会議の意見を元に、Googleカレンダーに行事予定を表示したり、職員用のポータルサイトを立ち上げるなど、情報の整理と共有方法を模索中である。 ・1人1台端末を活用した学びの変容状況アンケートでの回答	B	・Googleカレンダーでスケジュール管理（生徒含む） ・職員用ポータルサイトを立ち上げ活用 ・生徒用ポータルサイトを1年生のみ3学期から活用 ・生成AI研修を行い、生成AIを活用して業務改善を考える などさらなるICTの活用を授業以外でも進めている。	A	B
	地歴公民科	・生徒端末の導入が1年生のみであり活用方法に関する情報共有が学校全体でなされていない。	・地歴公民科が中心となりICTを活用した授業を推進する。 ・積極的な授業公開を行い校内での情報共有に努める。	・公開授業期間+αでの授業公開を実施する。 ・校内でICT活用に対してポジティブな発言が増える。	・地歴公民科教員のICT活用は他教科よりも進むが校内への波及はなし。 ・山陽学園大学と連携し高大接続授業を2回実施し数名の先生方に参観していただいた。 ・探究的な学びを進めるために地域を題材とした「街歩き」を実施したので他教科との連携を模索中。	B	・授業公開するも参観人数が少ないため校内への波及がないためPRに工夫が必要 ・松山大学の卒業生と連携し大学生の取組の様子を講演してもらった。 ・科として探求チームを組織し2つのビジネスプランコンテストの最終審査まで進むことができた。	B	
	理科	・授業ではiPadの画面を電子黒板に投影して説明したり動画をながしたりクラスルームで連絡を配信した。部活動では撮影した動画をクラスルームで配信して自分の射を見直しできるようにした。	・授業や部活動以外のところ（公務分掌等）でICT活用を行う。	・公務分掌、学年、クラスでICTを活用する。	公務分掌ではフォームを使うことが少なかった。	・修学旅行の班別研修の計画書提出にタブレット活用した。	C		B
9 効率の良い働き方を意識する。（残業時間：月45時間2カ月平均80時間）	管理職	・特別目立つような超過勤務はない。 ・ミライムの打刻が適正にできていない。 ・教員間で話ができているが、効率の良い働き方ができていない。	・定時退校日等を設定し、勤務時間の適正化に努める。 ・年次休暇等を積極的に取得できるようにする。 ・教員間で声かけをして、効率の良い働き方を行う。 ・勤務時間の振替等ミライムの打刻を正確に行う。	・ミライムを活用して勤務時間の把握をし、公立の良い働き方を意識する。 昨年度累計 360時間超 720時間超 45時間超が7月以上 17人 7人 11人 40% 17% 26% 今年度目標 35% 10% 20%	・夏季特別休暇の取得率は100%になる。（10月末までに取得予定を含む） ・時間の短縮だけでなく、もう少し仕事の中身や組織で活動することで効率よく働くことができる。	B	・多くの先生が年次休暇を積極的に取得することができた。 ・ミライムの打刻が出来ていない教職員がいる。勤務時間把握のため、もっと声掛けをする必要があった。	B	A